

研究 成 果 要 旨

研究テーマ 看護大学生の生活習慣と生活環境が学修成果に及ぼす影響
研究組織 研究代表者：丹治史也（日本赤十字秋田看護大学・講師） 研究協力者：南部泰士（東京保健医療大学和歌山看護学部・教授） 新田純子（日本赤十字秋田看護大学・教授） 阿部範子（日本赤十字秋田看護大学・教授） 小野麻由子（日本赤十字秋田看護大学・准教授） 児玉悠希（東京情報大学・助教）
キーワード 看護大学生、学修成果、レジリエンス、心理的ストレス、COVID-19

研究報告 （１）研究の背景・目的 本研究の目的は、看護大学生における①レジリエンスを含む生活習慣・生活環境と学修成果との関連、②COVID-19 パンデミック禍の心理的ストレスの関連要因を解明することである。 （２）研究方法 2020 年 9 月～11 月にかけて無記名式 Web アンケート調査を実施した。目的①については看護大学生 1～3 年生 229 名を対象に重回帰分析を実施し、非標準化係数（β）と 95%信頼区間（CI）を推定した。目的②については 1～4 年生 289 名を対象にポアソン回帰分析を実施し、有病率比（PR）と 95%CI を推定した。 （３）研究結果 目的①について、資質的レジリエンス要因「行動力」と Functional-Grade Point Average（f-GPA）との間に有意な正の関連を認めた（$\beta=0.06$； 95%CI, 0.03-0.09；$p<0.01$）。目的②について、COVID-19 パンデミック発生前の 2019 年国民生活基礎調査（20～24 歳）と比較したところ、対象者の心理的ストレスの有病率は 58.5%と約 2 倍となっていた。また、心理的ストレスの要因として、保護的要因では資質的レジリエンス要因（PR=0.70； 95% CI, 0.53-0.92；$p<0.01$）、リスク要因では既往歴（PR=1.30； 95% CI, 1.07-1.59；$p<0.01$）と睡眠障害（PR=1.26； 95% CI, 1.06-1.50；$p<0.01$）が有意な関連を示した。 （４）考察 資質的レジリエンス要因「行動力」の構成要素はグリットの要素と類似しており¹⁾、学修成果の向上には努力や粘り強さ、最後までやり通す力が重要であるかもしれない。心理的ストレスには、既往歴や睡眠障害の他、資質的レジリエンス要因が影響していた。
--

COVID-19 のような社会的なストレスイベントが長期化した際には、資質的レジリエンスのような気質に関わる側面が心理的ストレスに影響する可能性がある。

(5) 結論

看護大学生において、資質的なレジリエンス要因「行動力」が f-GPA と正の関連を示した。また、COVID-19 は看護大学生の心理的ストレスに多大な影響を及ぼしており、それには資質的レジリエンス要因が保護的に、既往歴や睡眠障害がリスク要因として関連していた。COVID-19 パンデミックが長期化する中、看護大学生の心理的特性や健康問題をモニタリングし、学習環境の整備、教育方法の検討することの重要性が示唆された。

(6) 謝辞

本研究は、「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成（令和 2 年度・令和 3 年度）」により助成を受けて実施した。

(7) 引用文献

1) Duckworth AL, et al. Grit: Perseverance and passion for long-term goals. J Pers Soc Psychol 2007; 92: 1087-1101.